

3月、冬の葉山ではエントリー時に
こんなにも美しい富士山を眺め
ることができる

春 夏

葉山

撮影・文＝岡田裕介 Yusuke Okada
取材協力＝ダイビングショップ NANA
Design＝tomato

seasons
of
Hayama

秋 山

冬の

都心から約1時間の距離にありながら、驚くほど豊かで多彩な顔を持つ海。

近年、多くの水中写真家やフォト派ダイバーに注目されている

この葉山の海を、この地に誕生し2014年7月7日にめでたく7周年を迎えた

『ダイビングショップ NANA』の地元出身のオーナーガイドの輝さんと

この海に魅せられた個性豊かなガイド陣と共に過ごした葉山在住カメラマンの1年の記録。

富士山に見守られながらの幸せダイビング。

冬の風物詩である海藻の森は葉山で一番好きな光景

冬

の葉山

【12月～2月】

NANA ガイドさんの
冬のオススメ！

水温が下がり透明度が上昇してきます。1月頃から水深の浅い場所の海藻も一気に成長しはじめ、海藻の森が形成されはじめます。12月～1月はダンゴウオの抱卵、2月はチャガラ産卵、抱卵、ダンゴウオの稚魚も観察されはじめ、ウミウシも増える、ワイドにマクロに楽しめる季節です。

葉山の
春夏秋冬

葉山の春夏秋冬



海 底から見上げたワカメと太陽

- 01/小さな穴でひっそりと抱卵するダンゴウオ
- 02/人気のタツノオトシゴ 動きが遅いので被写体には最適
- 03/美しいアカエラミノミウシ
- 04/卵を守るチャガラ
- 05/大人気、天使の輪を持つダンゴウオ



01



02



03



04



05



06



07



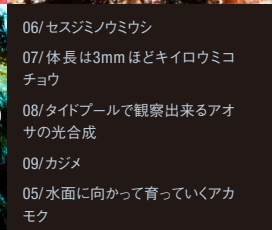
08



09



10



- 06/セスジミノミウシ
- 07/体長は3mmほどキイロウミコチョウ
- 08/タイドプールで観察出来るアサの光合成
- 09/カジメ
- 05/水面に向かって育っていくアカモク

天使の輪を持つダンゴウオに会いに行く 幻想的で美しい海藻の森を抜け

撮影を開始したのは3月。慣れないドライスーツに戸惑いながら、ヒンヤリとした水温約14℃の海中に顔をつけて潜り始め、最初に目に飛び込んできたのは今でも忘れられない、光が差し込み美しく輝く海藻の森でした。

海水がぴりっと引き締まる程の冷水の中、堂々と生い茂る様子を見て水中で声が出てしまうほど心底驚き、感動したのを覚えています。また同時に、こんな世界が葉山の海にあったなんて、もっと早く潜っておくべきだったなと後悔の念も湧き上がってきました。

葉山在住の僕にとってそこは普段生活している場所。ジョギングをしたり、子供と自転車を走らせている生活の場のすぐ下に広がる美しい世界。そのことを知らなかったのを悔やんだのと同時に、まだ見ぬ人々にもっと知ってもらいたいという気持ちが芽生えたのを思い出します。

この美しい海藻の森を持つ葉山「芝崎海岸」の海は、全体的に水深が浅く、海藻が光合成をするのに適した環境。そのため海藻類の成長は早く、冬になり水温が下がる事で成長が始まり、例年2月の下旬頃、まるで森のように辺り一面に広がります。

様々な形をした海藻類が絡み合って育まれるこの森は、透明度が良く太陽の光が綺麗に差し込む日に潜れば、驚くほど幻想的な光景に出会えるのです。

そして2月頃からは、今、大人気の天使の輪を持ったダンゴウオの赤ちゃんの季節が始まります。天使の輪を持ったダンゴウオ

の赤ちゃんは想像よりも全体的にプリッとしていてハリのある感じで、尻尾もまたプリップリッと本当に可愛い。

体長は2,3mmと、とにかく小さいので撮影時のピント合わせには苦労しますが、しっかりと体とカメラを固定できれば、ほとんど動きはないので撮影自体はそんなに難しくはないと思います。

また後ろを向いていたり、背景や構図が悪かったりする場合、赤ちゃんはあまり動きがないので、待っているよりも、別のダンゴウオがいる場所に移ったほうが良いかもしれません。普通の表情も良いけれど、やっぱり何かしらのしぐさがあると可愛さも増すのかなと、あくび姿を

狙って待ち続けることもありましたが、ダンゴウオが口を開けるのは本当に一瞬なので気が抜けません。

寒さが厳しい冬の時期なのに、カメラを通して可愛いダンゴウオの顔をずっと見続けていると、寒さも忘れてしまうほど楽しくて心地よい時間で、こちらからも穏やかな気持ちになってしまうのが不思議。これが寒さの中でもダイバーを引きつけるダンゴウオの力なのでしょうね。

また冬の始まりには、赤、緑、ピンクと様々な色の個体を見る事もできます。海藻の森とダンゴウオ、ワイドにマクロに大忙しのフォト派ダイバーの嬉しい悲鳴が聞こえてきそうです。

そして葉山でのダイビングでは、ポイントのある芝崎海岸から遮る物がなくドカーンと見事な富士山を眺めることができます。特に冬の時期の空気が澄んだ日に見える富士山は息をのむほど美しいですよ。

冬の葉山の

春

の葉山

【3
—
6
月】

NANA ガイドさんの 春のオススメ!

3月頭はまだ透明度が良い日も多く、海藻の森はもちろん、ダンゴウオ、スナビクニン、ウミウシと、ワイドにマクロに楽しめます。3月終わりから春濁りがはじまり、マクロ中心に楽しむ日が多くなりますが、ゴールデンウィークの頃に回復することが多いです。5月終わりから6月は海藻が弱り、切れて流れ藻となり、この海藻にカエルアンコウの幼魚やタツノオトシゴの幼魚がついて、流れ藻ダイビングが楽しい時期になります。またウミウシも多い時期となります。

5月、小指の爪ほどの大きさに成長したダンゴウオのアクビ

葉山の
春夏秋冬

陸上の春よりも遅れてやってくるのが水中の春。水中では春の始まりも引き続き、海藻が生い茂る幻想的な海藻の森を観ることができます。この森の成長は本当に早く、1週間違うだけでまた違った別の景色を見ることもできます。

エントリー直後の、本当に水中を散歩しているような気分を味わえる浅瀬の海藻の森をゆっくりと抜け、徐々に水深を下げて行くとそこに待っているのが春のアイドル、大人気のダンゴウオ。

本格的なシーズンを迎えるダンゴウオ。天使の輪を持つ子供から、小指の爪ほどの大きさに成長した様子を多くとくには20匹ほど観察できるそう。個体ごとに表情や色が違うので、そこにも注目して観察すればより楽しめます。

抱卵からふ化の過程の調査も進んでいて、その生態が徐々に解明されている葉山のダンゴウオは来年以降も本当に楽しみな存在です。

また春の人気者スナビクニンも登場します。個体ごとにまったく体色が異なる不思議なこの生物はワカメのメカブ、海藻の隙間などに住んでいるため、見つけるのがわりと大変なんです。ガイドさんに根気よく探してもらいやっと見つけても、それもまた、ちょこちょこ動き回るのでシャッターチャンスはかなり少ないのですが、住処の海藻を背景に撮影するとかなりフォトジェニックな生物。撮り応えのある存在です。

そして春になると一気に種類が増えるのがウミウシで、2ダイブで20から30種類ものウミウシが観察できるのが葉山の良いところ。残念ながら春濁りの影響が出始めていたら、水底でじっくりウミウシ探索ダイブもオススメです。

葉山の海は5月のゴールデンウィークあたりを境に水温は徐々に上昇してきます。

春の葉山



01/オトメウミウシ
02/カエルアンコウ
03/オオヒメベニツケガニ

葉山の春夏秋冬

葉山のトツプアイドル ダンゴウオに出会う春



04/スナビクニン
05/イソギンポ
06/コケギンポ
07/アマクサアメフラシ

08/イソギンポ
09/アオウミウシ
10/マダコの抱卵
11/イソギンポ

ダンゴウオ



夏

の葉山

〔7-9月〕

NANA ガイドさんの
夏のオススメ!

水温が上がり、群れが多くなります。ネブツダイ、チャガラ、ハタンボなどがカジメの周りに群れるのがワイドの特徴で、マクロでは季節来遊魚。生態関係では、ニジギンボの抱卵、イソギンボの抱卵、マダコ抱卵などが観察できます。

葉山の
春夏秋冬



01/ニジギンボと貝の中に産みつけた卵
02/スズメダイの抱卵
03/ネンブツダイの群れ
04/サラサエビ

05/トゲアシガニとウツボ
06/岩の間に隠れているミナミハコフグの幼魚
07/3匹のアオウミウシ
08/マダコの抱卵
09/チャガラの群れ

10/コケギンボ
11/しらすのお兄さんはカタクチイワシ
12/アオウミウシと気泡
13/とぼけた顔の可愛いナベカ
14/黄色が際立つカゴカキダイの群れ

のんびり夏の暖かな海でダイビング

例年6月頃に姿を消す海藻の森に変わり、水温が徐々に上がっていく夏場は、岩場の続く芝崎海岸で、潮が引いた時に作られる天然のタイドプールを楽しみました。

葉山 芝崎にある2つのダイビングポイントは、共に岩場が続いていて、エントリー／エキジットは正直なところ少し大変ですが、(一度、オーナーガイドの輝さんがバランスを崩すのを見て目のやりどころに困った事もあります……) そのおかげで、生物にとっては生きていくのに、とても良い環境が整えられているのです。(ちなみにこの岩場を歩く時には厚底のブーツをお勧めします。ブーツが薄いと足つぼマッサージのようになり、かなり辛いです。)

タイドプールは生物の宝庫。水深はひざ下から深くても胸辺り、潮の動きもウネリもない時には、フィンも付けないで、温かな水温の中でヤドカリやウミウシをゆっくりじっくりと、残圧も窒素も心配せずに集中して撮影することができます。夢中になって撮影していて気がつけば、3時間も経過していたこともありました。

また、浅場での撮影には太陽の位置にも気を配っていきたいです。特に海藻類が光合成をする時に出る気泡を入れた自然光での撮影には重要で、太陽の角度で見られる海中の表情も次々に変わって来るのが、難しく写真の面白いところ。

気泡を背景構図に入れた写真や、静止した水面が鏡のように写る様子など、誰もが撮りたいと思えるような写真が撮れるのもタイドプールのオススメポイントです。

僕らが撮影に夢中になっている周りでは、スノーケリングを楽しむカップルや岩場の上で昼寝するおじさん、磯遊びする親子など、そんな穏やかな夏の時間が流れる中でタイドプールで、また新しいダイビングの楽しさを教わりました。

タイドプールに満足したら、夏の海中へも行ってみましょう。貝の中に卵を産みつけたニジギンボや抱卵中のスズメダイなど、数多くの子育て中の個体を多く見る事ができます。

そんな中、個人的に興味を持ったのが抱卵中のマダコの様子。抱卵中の生物を撮影する時には、親が警戒して、攻撃的になる事が多いのですが、マダコの場合は、僕らが巣穴を覗いたり、ストロボを当てて撮影したりしていても、威嚇するでもなく、ただじっと静かに卵を抱き守っている感じで、そんな姿に何だか心が打たれました。

またマダコの巣穴の入り口は、まるで人間が積み上げたかのように綺麗に石が積んであり、とても不思議な光景でした。しかし、タコって子供の頃からその存在を知っているから何とも思いませんが、じっくり観察しているとほんと不思議な姿をした生き物だな〜っていつも思います。

夏の葉山の

葉山の春夏秋冬



葉山の
春夏秋冬

秋

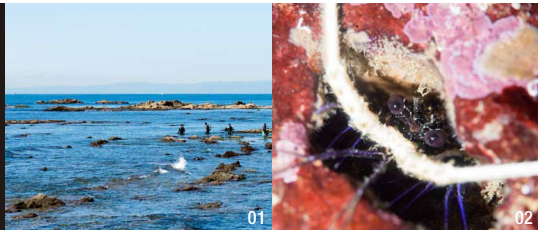
の葉山

〔10
|
11月〕

NANA-ガイドさんの 秋のオススメ!

秋になっても引き続き季節来遊魚が観察できます。透明度が良い日が多く、夏同様、ワイドな群れが楽しめるのと、11月になるとキヌバリの産卵、抱卵が観察できるようになります。このキヌバリの産卵が観察できるようになると、水温も下がりはじめ海が冬の様子に変わっていきます。

01/富士山を眺めながらエントリー
口へと歩く
02/ゴシキエビ



秋のお楽しみは、季節限定の季節来遊漁。黒潮に乗って流れ着く、熱帯・亜熱帯域の魚のことで、冬にむけて水温が下がるとほとんどが子孫を残すこともなく死んでしまうそう。

どうやって流されて来るのか本当に不思議ですが、そんな季節来遊漁を葉山ならではの背景で撮影したり、逆に南の海では観察することができない葉山固有の生物達と、混じりあう様子も見ていて面白いところ。

魚影も濃くなり、群れが多く観察することができるこの時期。プランクトンの数も減り、透明度もぐんぐん上昇してくるので、クレパスやオーバーハング、トンネルなどの地形も楽しめるポイント『権太郎岩』で地形と群れと合わせて、ワイド撮影が楽しい季節でもあります。

『権太郎岩』と『170度の根』の2カ所のビーチエントリーのポイントを持つ芝崎海岸は、葉山町の天然記念物の指定を受け保護されています。

そのための様々なルールがあり、それを皆が守る事で都心から1時間の距離にありながら、このような環境が守られているのです。

葉山のダイビングポイントは共に最大深度が12～13mほどで水深が浅いため、

減圧症へのリスクが低く、空気消費量も少ないので、思う存分写真撮影に集中できる、初心者にもおすすめのポイントです。

また今年で4回目を迎える、葉山の素晴らしい水中世界を伝える、葉山海中フォトコンテスト (<http://photocon-hayama.com>) にも注目。写真に精通したスタッフがいるNANAでは、撮影のアドバイスやダイビング中にも撮影のアシストもしてくれます。写真はかなり撮りやすいのできつと気に入った写真が撮れるのではないのでしょうか。

ビギナー部門もあるので初心者の方も腕試しにいいかもしれません。

1年間通った葉山の海とダイビングショップNANA。その魅力のひとつにスタッフの方々の仲の良さから広がる楽しい雰囲気があります。

ダイビングショップですから、潜る海的环境や設備なども重要ですが、一緒に潜る人が楽しければ満足できるのがダイビング。

NANAさんの海に対する真摯な姿勢を持ちながらも笑顔の溢れる雰囲気の中で潜るのは、毎回、本当に楽しかったです。

これからも魅力溢れる葉山の海を見守って行きたいと思っています。

秋の葉山

葉山固有の生物とのコラボレーションを楽しむ秋

南方から遙々やってくる季節来遊漁と



03/ハタンボの群れ
04/イワアナコケギンボ
05/ネンブツダイの群れ
06/マツカサウオ

07/可憐なムカデミノウミウシ
08/アカハチハゼ
09/フタホシニジギンボ
10/コロダイ
11/貝の卵囊でナガサキニシキニ
通称ワイングラス

葉山の春夏秋冬



富士山を眺めながらエントリー
口へと歩く

Shop Info.

2014年、オープン以来7周年を迎えた「ダイビングショップNANA」。オーナーガイドの佐藤輝さんに、葉山の魅力について聞いてみました！

ずばり、葉山の魅力とは？

都心から1時間で来られるので、通って、ハッキリと感じられる四季を楽しめる海です。あとは水深が浅いので、フォト派に最適なフィールド。生態をじっくり狙いたい方にも向いています。

四季を一番感じられる瞬間は？

葉山といえば「海藻の森」が象徴的ですが、四季によって海藻が変わります。水温の下がる12月くらいから海藻が元気になり、2月終わりまでが最盛期。4月が変わり目で、ちょっとずつ元気がなくなり、7～8月ごろにすっかり弱って、台風で一気に洗われてツルツルになります。海に入った瞬間に、季節を感じるのには海藻シーンですね。

葉山といえば、この生物！を教えてください

通年でいえば、数も種類も多いギンボの仲間でしょうか。いろんなシチュエーションで撮れます。スペシャルティコースもありますよ！

季節ものといえば、やっぱりダンゴウオ。例年、1月に登場して5月いっぱいまで見られます。これからの季節（2～3月）はチャガラの抱卵なんかが見どころです。

ずばり、ベストシーズンは？

個人的には2～3月でしょうか。ネタに困らない時期です。ダンゴ出て来て、ウミウシ増えて、海がきれい、ギンボもたくさん。ちょっと水温がベストじゃないので（笑）、ドライスーツですけれどね。

01/ダンゴウオ 02/シカさんお手製のランチが大好評。一般的なメニューもあるが、何といても、湘南といえばシラス丼がオススメ！



STAFF



TERU SATO

葉山生まれ・育ちで、慶応ボーイの香りが漂う。写真も生物のレベルは文句なく高いが、ショップでの地位は代表なのに割と低め。



MAKIKO SATO

NANAを裏から支える……という聞こえがいいが、裏から操っているとの声も多数な女将。手作りランチが大好評。

NANAをどういってお店にしたいですか？

昔は、ある程度、敷居の高いお店にしたいとも思っていた時期がありましたが、今はいろんなダイバーに来てほしいと思っています。ビギナーから一眼フォト派まで、いろんな人がいたほうが活性化して面白いんですよね。ですから、常に4班、土日は最大で6班態勢で受け入れられるようにしていますので、気軽にいろんなダイバーに来ていただきたいです。海も葉山だけでなく、三浦のポートポイントで潜ることもできますよ。



SUMIE KAMISHIMA

オープン以来、葉山の海を潜り続ける、明るく元気なバワフルガイド。TERUさんをおさえ、現場ヒエラルキーのトップに君臨。



MASAMI HASHIMOTO

いつもニコニコ、心優しい、気を遣い屋さん。でも、青春を捧げていたバレーボールの時は人が豹変し、「オドリャ〜！」と球をぶち抜くんだから人ってわからない。



SHOU TANAKA

特技の野球は、大学時代、神宮球場で活躍するほどの腕前。球児時代の強制坊主から解放されたのに、なぜかNANAでは強制バンチパーマ。

海を通してみんなで幸せな時間を。

ダイビングショップNANA

www.nana-dive.net

神奈川県三浦郡葉山町堀内647

TEL.046-854-4770

Email: info@nana-dive.com

営業時間 8:00 ~ 18:00